

## 2020 年度特定研究奨励金 報告書

### 報告者所属・氏名

所属	人間社会学部人間社会学科	氏名	標葉 靖子
----	--------------	----	-------

### 奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

「科学技術の智プロジェクト」の議事要録テキストを対象とした計量分析を行った。その結果、日本における「すべての日本人のための科学技術リテラシー像」構築の議論展開には、プロジェクトの後半にかけて各専門部会での議論が「何を含めるか」といったコンテンツ重視の議論へと移行していく傾向が認められること、その一方で、「何を削るか」といった削除の方向を示す関連用語が議事要録からは一切抽出されないといった特徴があることを見出した。他にも、当該プロジェクトの各部会報告書が取りまとめられた後の閲読段階で、当該報告書の読者が不明であることや難易度の問題が指摘されていること、とりわけ全体の取りまとめに関わる議論のなかで、各分野での議論の蓄積や科学的根拠の提示がないままに、日本人、日本文化、日本語などの、〈日本らしさ〉やその〈特殊性〉が議論されるといった特徴が明らかとなった。こうした特徴を踏まえ、当該プロジェクト関係者へのヒアリングも進めていく中で、当該プロジェクトでは、何のために「すべての日本人」の「科学リテラシー涵養」を目指すべきかの議論が「理科離れ」対策という位置付けを超えず、科学者ではない科学者を目指さない市民も共有しうる目標についての議論はされないままに、各学術分野の意見を代表したロールプレイをおこなっていた可能性があることを見出した。

これらの予備的な解析結果をもとに、科学技術社会論および科学教育論における「市民が涵養すべき科学リテラシー」をめぐる言説・先行研究をレビューするとともに、共同研究者とのオンライン打ち合わせを複数回行いながら、論文投稿を目指して現在準備中である。